令和６年度（2024年度）後志管内道徳教育パワーアップ研究協議会

令和７年１月31日（金）実施
北海道教育庁後志教育局教育支援課義務教育指導班

道徳教育推進委員による公開授業の参観及び説明、協議等を通して、よりよく生きるための基盤となる道徳性の育成に向けた道徳科の特質を踏まえた指導方法や評価方法の工夫・改善についての理解を深め、実践につなげることを目的とし、道徳教育推進教員及び市町村教育委員会担当者を対象に、令和６年度（2024年度）後志管内道徳教育パワーアップ研究協議会を開催しました。

【協議１】「倶知安町立倶知安小学校の授業実践に係る協議」
- 主題名　「こまっている人のために」（内容項目：B－６　親切、思いやり）
- 教材名　「手伝う心」（出典「小学どうとく　はばたこう明日へ」教育出版）
- ねらい　ひろみさんが「いいよ。自分で取るから。」と、いつになく強い声で言った理由について話し合うことを通して、相手の状況や気持ちを考えて行動する道徳的実践意欲と態度を育てる。
- 授業のポイント
  ①事前・事後アンケートを行うことで自己の変容を自覚できるようにする。
  ②終末段階で、日常生活の中で児童が相手を思いやって行動している姿を紹介し、価値付けることを通して今後の実践意欲につなげる。

成果
- 導入場面で、内容項目が同じ学習について振り返る時間を設定したことで、テーマが同じでもどこが違うのかを考えながら学習を進めることができていた。
- 導入場面で、ICT を活用した児童アンケートの結果を基に話し合うことで、本時のテーマについて自分事として捉えることに繋がっていた。
- 終末場面の教師による説話で、日常の児童の道徳的実践を写真とともに紹介したことで、児童は道徳的価値を身近に感じ、実践への意欲を高めていた。

【協議２】「黒松内町立黒松内中学校の授業実践に係る協議」
- 主題名　「伝統文化を継承し発展させていくために」
  （内容項目：C－17　我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度）
- 教材名　「書道パフォーマンスの挑戦」（出典「新訂　新しい道徳２」東京書籍）
- ねらい　石原先生や書道部員の「書道」に対する思いに触れることを通して、伝統を継承しつつ、更に発展させていくことの大切さを理解し、伝統を継承、発展していこうとする道徳的実践意欲と態度を育てる。
- 授業のポイント
  ①導入場面で動画資料を提示することにより、生徒の教材に対する興味・関心を高める。
  ②「グループでの話合い活動」、「クラウドを活用した考えの共有」を授業に位置付け、考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

成果
- 導入場面で、動画を視聴したことが本時の内容項目に迫るために大変効果的だった。
- クラウドが効果的に活用され、生徒が様々な考えを参照し、考えを深めることに繋がっていた。
- 展開場面における、生徒の思考を促す効果的な補助発問が参考になった。

小・中学校に共通する課題
- ICT の活用により、瞬時に考えを共有したり、多面的・多角的に考えたりすることができるメリットがある反面、自己の生き方についての考えを深めるために直接対話できる場面の充実を図る必要がある。

【説明・協議】
- 「『特別の教科　道徳』授業づくりハンドブック」を基に、「①授業づくりの流れ」、「②授業づくりのポイント」、「③道徳科における学習評価についての説明や協議」を通して、管内の重点に関わる新たな気付きを得たり、道徳科の特質を生かした指導方法や評価方法の工夫改善のポイントについて共通理解を図ったりすることができました。

【アンケートから】
- 小中学校の教員が一緒に協議を行うことで、他校種ではどのように実践されているかを見たり話し合ったりすることができ、よい刺激となるとともに、道徳科の特質を踏まえた指導方法等の共通理解を図る貴重な場になりました。
- 授業動画を視聴し、協議したことで、自身の授業を見直し、勤務校の課題を解決するための手がかりを得ることができた。
- 「『特別の教科　道徳』授業づくりハンドブック」を基にした説明、グループ協議、２つの授業から、道徳科の特質を生かした授業づくりのポイントを理解することができました。